

第56回日本てんかん学会学術集会（東京）
ランチオンセミナー10

脳卒中後てんかんの 最適解に迫る ～脳血流SPECTの有用性～

座長

京都大学大学院医学研究科 てんかん・運動異常生理学講座 教授

池田 昭夫 先生

演者

国立循環器病研究センター 脳神経内科 医長

田中 智貴 先生

●日時・会場

2023年 10月20日(金)
12:10～13:10

京王プラザホテル 第5会場（南館4階 扇）
〒160-8330 東京都新宿区西新宿2-2-1

共催 第56回日本てんかん学会学術集会 /
PDRファーマ株式会社

後援 日本脳神経核医学研究会 / 日本核医学会



演題

脳卒中後てんかんの最適解に迫る ～脳血流 SPECT の有用性～

国立循環器病研究センター 脳神経内科 医長 田中 智貴 先生

脳卒中後てんかんは高齢者てんかんの最も主要な原因であり、脳卒中急性期治療の進歩による脳卒中死亡率の改善とともに、年々増加の一途を辿っている。かつては、脳卒中後てんかんは症候性てんかんの一部として取り扱われていたが、多彩な脳卒中病巣に応じたてんかん発作症状や、脳卒中病巣による脳波、画像所見への影響、治療選択時における他の心血管リスク因子に対する配慮など、脳卒中後てんかんならではの治療方針を取っていく必要があると考えられる。本講演では、これまでに報告されてきた脳出血、心原性脳塞栓症、脳卒中重症度、皮質病変、早期発作などのリスク因子、それらを用いたリスクを層別化するスコア、脳卒中後てんかんの病巣とてんかん発作症状の特徴、脳波検査所見の特徴、脳血流SPECT検査の有用性、脳卒中後てんかんの治療戦略、発作コントロールの意義について最新のエビデンスを用いて、脳卒中後てんかんの最適解に迫りたい。

日本脳神経核医学研究会及び日本核医学会入会のすすめ

日本脳神経核医学研究会は、日本核医学会の分科会として、脳核医学に関する基礎および臨床研究の推進とその普及をはかり、それを通じて我が国の学術文化の発展に寄与し、国民の保健と福祉の向上に資すると共に、国際協力につとめることを目的として平成12年11月3日に発足しました。脳核医学の発展には、放射線科や核医学科において検査を実施する医師や技師に加えて、脳神経外科、神経内科、精神科など臨床診療に携わる医師、装置や医薬品の開発を行う物理工学、薬学、化学などの基礎研究者の協力が不可欠です。本研究会は、これらの学際的な領域の医療関係者や研究者を対象に、セミナーや講演会などを開催して、脳核医学の幅広い普及をめざします。また、さまざまな課題に対応するために、ワーキンググループを設置して議論を深めていく予定です。

研究会の会員相互の情報交換には、インターネットを活用して幅広く情報を提供していきたいと考えています。本研究会が主催、共催する行事や関連研究会の案内もホームページでご覧いただけます。会員が情報を共有するとともに、外部に向けて発信できる新しいタイプの研究会を指向して活動を行っていききたいと考えています。

この趣旨にご賛同いただき、核医学の発展のために、是非本研究会、学会にご入会いただきますようお願い申し上げます。

詳しくはホームページをご覧ください。 <http://www2.convention.co.jp/jcnn/>

日本脳神経核医学研究会事務局

〒100-0013 千代田区霞が関1-4-2 大同生命霞ヶ関ビル18F 日本コンベンションサービス株式会社内
Tel:03-3508-1243 Fax:03-3508-1302 E-mail:infojcnn@convention.co.jp



JCNN